

学校全体でのコグトレの継続的な取り組み—成果と今後の課題—

井阪幸恵（和泉市立国府小学校 指導教諭）
多田 彩（和泉市立国府小学校 教諭）

1. 目的

本校では、特別支援学級と通級指導教室において、7年前にコグトレを導入した。効果を感じたことから、通常学級でも、取り組みやすいCOGETを5年前から導入した。5年間継続して取り組んできた結果について考え、今後の取り組みの方法を検討する。

2. 方法

昨年度は、1年生から6年生の各1クラスで、7月後半～8月初旬と9月下旬～10月初旬に2回アセスメントを行った。アセスメントは、COGETのプリントを使用し、「見つける」「数える」「写す」「想像する」から、高学年、中学年、低学年に合わせたプリントを選んだ。トレーニングは、COGETで週3回程度取り組んだ。内容は、1回目の結果で弱かった「記号さがし」を中心に、できるだけまんべんなく取り組むこととした。

3. 結果

5年間継続した結果は、学年が上がるごとに各個人の認知機能がフラットになっていった。高学年では、クラス全体で認知機能がほぼ整っている状態であった。低学年になるほど、認知機能にアンバランスさのある児童が多く存在した。

4. 考察

結果から、認知機能にアンバランスさのある児童ほど伸びが大きく、COGETが有効であることが分かった。また、継続して取り組むことで高学年では認知機能がほぼ整ったことから、小学校の間に弱さを改善できることが分かった。今年度の取り組みについても触れながら、今後の取り組み方法について考えていきたい。